トップニュース

御堂に元気な声響く

全国から児童念仏奉仕団928人

子どもたちに本願寺で楽しい夏の思い出を作ってもらいたいと、恒例の児童念仏奉仕団が７月24日から８月６日まで本山で行われた。１泊２日の日程で５回実施、のべ31団体928人（引率者含む）が参加した。

今年度最多となる410人（11団体）が参加したのは７月29日からの回。最初のオリエンテーションでは各団体の代表児童が自己紹介。地元の名所や特産品、日頃の子ども会活動の様子などとともに、「おつとめや奉仕を通して仏さまの教えを学び、全国の仲間との交流を深めたい」「夏休みのいい思い出にしたい」などと意気込みを発表すると温かい拍手が送られた。

御影堂での開会式の後は、堂内に広がって清掃奉仕。子どもたちは同じ団体の友だちと列になって外陣の畳をから拭きしたり、縁側や向拝の階段、欄干などを拭いて（**写真**）、真っ黒になったぞうきんを満足そうに見ていた。また、ご門主との記念撮影・ご面接もあった。

２日間ともに京都市内の最高気温が40度に迫る猛暑日。本山職員やスタッフの学生らは、子どもたちにこまめな水分補給を促すなど体調管理に十分気を配りながら、境内のクイズラリーや腕輪念珠作りなどをサポートしていた。

児童念仏奉仕団の参加者のうち111人が晨朝後の帰敬式を受けた。

同世代へのメッセージ

長崎　近藤翔真さん（仏青連盟中央委員長）

仏さまの声をきく　生きとし生けるものの平和のために

終戦80年　つ・な・ぐ

戦後80年全戦没者長崎教区追悼法要（7月4日）のテーマは「仏さまの声をきく～生きとし生けるものの平和のために～」。この言葉は公募で選ばれた。

応募したのは長崎市の会社員・近藤翔真さん（29、本派仏教青年連盟中央委員長）。山梨県出身。宗門校の武蔵野大学（東京）で仏教、浄土真宗と出遇った。「感銘を受けた一つに『スッタニパータ』（原始経典）に説かれる『一切の生きとし生けるものは、幸福であれ』というお釈迦さまの言葉がある。これが仏教の基盤だと私は思う。戦後80年の法要で、どうすれば同世代の若者にも平和へのメッセージが響くだろうと考えた時、〝生きとし生けるもののために〟という言葉がイメージに合った」。

同大ではグローバル学部で学び、副専攻として平和学のゼミを選択した。国際法や国際人権法の観点から戦争の歴史や平和への道筋について思いを巡らせてきたことも、仏教と向き合う契機になったという。

追悼法要に参拝する近藤翔真さん

「阿弥陀さまの願いはすべての命に向けられている。仏さまに手を合わせる人だけではなく、世界の反対側にいる人、戦火にいる人、加害の側面にいる人にも届けられている。そして、仏さまのまなざしは人間以外のすべての命にも向けられている。だから仏教が世界に広がっていくことが大事なのだと思う」

社会人となり赴任した長崎で、長崎教堂（諫早市）に偶然立ち寄ったことがきっかけで仏青活動に縁ができた。近藤さんにとって長崎は「第二のふるさと」であり、長崎には強い思いがある。「よくお参りする光源寺さん（長崎市）で、年輩のご門徒から被爆体験を聞かせてもらう機会が何度かあった。その語りから伝わってくるのは、戦争の時代を生き抜いてきた力強い生命力と平和への強い思い、そしてねばり強さ。言葉に〝魂〟がこもっているような迫力がある」と貴重な出会いを語る。

戦後80年。「戦争を体験した方の『生の声』を聞けるのは、私たちが最後の世代かもしれない。懸命に伝えてくださった思いを、次の世代に伝えていく責任が私たちにはある。『（伝わったのは）私たちが最後だった』と言われないように、50年先、100年先を見つめていたい」。

本願寺新報
hongwanji journal

9月1日（月曜日）

毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

寺院仏閣のトータルプランナー
株式会社 あいぞの
株式会社 あいぞの 寺社ラボ
オリジナル納骨壇・本堂仏具工事・寺院設計・建築及び資産法規御相談
福岡市早良区曙２丁目７番13号　https://www.aizono.co.jp/　フリーダイヤル 0120-168-940

今号の紙面

８月15日に本山で戦没者法要…２
８月大雨で各地に被害……２
築地本願寺でドイツ合唱団が演奏……８
みんなの法話……４
学ぶ親鸞聖人　ご生涯×教え…５
お釈迦さまの前世物語……３
季節の養生と薬膳……３
本願寺インスタ倶楽部……３
読者のひろば……７

赤光白光

以前、若手落語家がこんな小噺をしていた。「神社の鳥居はなぜ赤いのだろうか…」。きっと深いワケがあるに違いない。そう思って聞いていた。しかし、落語家の答えは「それは、赤いペンキで塗ったから」。その答えの意外さが面白いと思った。

▼続いてはアメリカでの自転車泥棒の話。アメリカでは自転車を泥棒する者がいないという。奇異なことに自転車を盗むのではなく、自転車のハンドルだけ盗んでいく。なぜか？　アメリカでは、ハンドルを２つお店に持参していくと１ドルくれるからだそうだ。ハンドルとハンドルで１ドル。ここにも人間の予定概念を外す面白さがある。

▼どうも人間というのは、計算通りに進むことを理想としているにもかかわらず、予定外の事柄や出来事の中に、感動や面白さ、喜びを見いだす生き物のように思えるのだが、いかがだろうか。仏教の言葉で「有り難し」という言葉がある。浄土真宗では特によく用いられる言葉でもある。「有ること難し」。そんなことにであえた喜びが「ありがとう」の声となる。

▼人から「有り難し」「有ること難し」とそう思えなどと言われると、説教じみて敬遠したくなるのだが、ごくごく当たり前の日常の日々を「有り難し」と見ていけたら、どんなに感動的で豊かな生活だろうかと思う。人生をつまらなくさせているのは、自分自身だということだろう。

購読料 1部120円（年間4,080円）　定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181／大谷本廟 075(531)4171

宗派公式Webサイト　https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ　https://www.hongwanji.kyoto

超吸水＆速乾
片手でキュッとしぼり易い
煮沸消毒・洗濯機OK
水切りマットにも
ギフトにおすすめ！ 北欧生まれのエコふきん
スポンジワイプ　F7060

井筒オリジナル「白象模様」
サイズ：20×17.2×0.3cm
セルロース＆コットン 100% 天然素材
井筒法衣店
600-8468
京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
Tel 075-351-1234
0120-075-720
Fax 075-341-7905
オンラインショップはこちらから↓

最新刊　帰京後の親鸞―明日にともしびを―⑫
八十五歳の親鸞
―信心と夢告―
今井雅晴（筑波大学名誉教授）

ようやく体調の衰えを周囲に語りはじめた聖人。前年から続けた『西方指南抄』書写や、書状を含めた聖人85歳の執筆・書写活動の内容から、この年2月の「信心の夢告」の意味を考察する。
B6判・104頁　1100円
聖人の晩年30年を考察するシリーズ《全15冊》予約受付中
新刊　残された和歌から貴族たちの飾りなき心を読み解く
平安貴族の和歌に込めた思い　続々
～小野小町・小野篁・醍醐天皇・藤原彰子・大弐三位・赤染衛門・二条天皇～
今井雅晴（筑波大学名誉教授）
謎多き歌人・小野小町、父や弟の摂関政治をその人柄で支えた中宮・藤原彰子など7人の人物像に迫る。
B6判・並製・192頁　1980円
＊価格はすべて税込　＊送料・発送手数料：ご注文合計6,600円未満＝一律400円、6,600円以上＝無料
合同会社 自照社　ホームページ：https://jishosha.shop-pro.jp
【赤井智顕 師 書き下ろしコラム配信中!!】
滋賀県大津市日吉台4-3-7　電話：077-507-8209　FAX：077-507-9926

ブディストマガジン 大乗 DAIJO 9月号
本日発売！
毎月1日発行
B5判／80ページ

年間購読料 4,500円（税・送料込）
1冊 375円（税・送料込）
好評連載
● 華遇記……藤井　真
● DAIJO法話……西村 慶哉
● ご機言！お寺の掲示板……江田 智昭
● 結婚してお坊さんになりました……前田 純代
● みのりのエッセー……中村 英龍
● 大乗 ほうわ・HOWA・法話……後藤 明信
● つながる医療と仏教……森田 眞照
―― その他コーナー多数！
本願寺出版社
0120 FreeDial 0120-464-583
FAX 075-341-7753
〒600-8501
京都市下京区堀川通花屋町下ル（西本願寺）
https://hongwanji-shuppan.com/